THEインパクトランキング2021 国内私立大で最高評価

イギリスの高等教育専門誌Times Higher Education（THE）が発表する「THEインパクトランキング２０２１」において、本学は国内の私立大学で最も高い評価を得た。このランキングは、大学が研究・社会貢献活動を通じて持続可能な17の開発目標（SDGs）にいかに取り組んでいるかをTHEがランク付けしたもの。3回目となる今年は過去最多の世界1240校がランキングの対象となった。本学が国内の私立大学で最高評価を得たのは昨年度に続き2年連続。

結果を受け、本学国際連携課の花村大輔さんは「本学は今年が2回目のエントリーだった。ランキングの対象大学が増加し競争が激しくなるなかでも、国内のトップ大学と肩を並べ、私立大学では最上位というポジションを維持できたことは評価できる」と語った。同じく国際連携課の山下正克さんは「本学でも意識している『社会貢献活動』で評価を得たのは素直にうれしい。これらの活動に携わる学生・教職員の皆さんに感謝したい」とコメントした。

なおSDGsのゴール別ランキングでは、本学は項目11「住み続けられるまちづくりを」において国内の大学のなかで最上位となった。「項目11は『文化遺産の保護にどう取り組み、社会に還元しているか』『環境に配慮した建造物を建築しているか』などがテーマ。本学のアートリサーチセンターは文化遺産保護を行う研究施設として評価を得たと感じる」と花村さんは話す。

山下さんは「アフターコロナの社会は、コロナ前とは異なる社会となっているだろう。刻一刻と変わる世界を意識し新しい『ノーマル』に対応していきたい」と今後の展望を語った。また「本学は学生の課外活動が多様。皆さんの活躍が大学発展の一助となる。ぜひ活動を学外にも発信してほしい」と学生に呼びかけた。（坂口）

国内大学ゴール別ランキング
本学が高い評価を得た項目

- 6 安全な水とトイレを世界中に ―5位
- 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに ―2位
- 11 住み続けられるまちづくりを ―1位
- 12 つくる責任 つかう責任 ―4位
- 14 海の豊かさを守ろう ―4位
- 16 平和と公正をすべての人に ―2位

2021年度・2020年度入学式が開催 入学の節目を刻む

4月2日に2021年度立命館大学・大学院入学式が、4月4日に2020年度立命館大学・大学院入学式が各キャンパスで行われた。なお両式典とも出席を入学者に限定。式典時間の短縮や施設収容人数を定員の2分の1に制限するなど、新型コロナウイルス感染拡大防止策を行った上で実施された。また対面で出席できない在学生や家族などに向け、式典の様子がインターネットでライブ配信された。ライブ配信の模様は現在もオンデマンドで公開されており、立命館大学公式YouTubeチャンネルから視聴できる。

衣笠キャンパスの両式典には松原洋子副学長が登壇。「Futurize. きみの意志が、未来。」という言葉を共有し、さまざまな挑戦が混ざり合う、これまでにない新しい社会共生価値を共に生み出していきたいとした。

また各キャンパスでは本学と本学校友会から2021年度、2020年度入学生に苗木が贈られた。2021年度入学式に参加した鈴木文乃さん（文1）は「気持ちのリセットができる機会となった。開催されたことがすごくうれしい」と喜びを語った。

キャンパスのプレートでは出席者が写真撮影に興じた

式典で出席者にメッセージを贈る松原洋子副学長

1年越しの入学式 開催の意図とは

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となっていた2020年度入学式が、4月4日に改めて行われた。午後からあいにくの雨模様となったが、多くの2回生が参加し、笑顔を見せた。

2020年度入学式開催の経緯について本学教学部事務部長の淺野昭人さんは「入学した実感が得られないとの声が寄せられていた。また、春季入学式の中止を決定した際、学長から発表されたメッセージにおいて、2020年度入学者に対する祝賀企画を検討する約束をしていた。そこで入学式が重要な節目の行事であることを鑑みて、2020年度入学生を対象とした入学式を実施することにした」と述べた。

また「本学に入学したという1つの節目をしっかり刻む場が必要であると考えてきた」と両式典の開催に対する思いを熱心に語った。（川村・矢沢）

2020年度入学者にも苗木が贈られた

関西学生陸上競技チャンピオンシップ マイルリレーでアベック優勝

関西学生陸上競技チャンピオンシップが5月20～23日、たけびしスタジアム京都（京都市右京区）で行われた。同大会は、新型コロナウイルスの影響により延期となった関西学生陸上競技対校選手権（関西インカレ）の代替大会として実施。関西全域の56大学から選手がエントリーした。

最終日に行われた4×400mリレー決勝では、本学陸上競技部が男女ともに実力を見せつけ、優勝を果たした。【3面に詳細】

レース後、笑顔を見せる選手ら

立命館大学新聞

発行所 立命館大学新聞社
発行人 石渡 園子
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 立命館大学学生会館 BOX316
075-465-8253（内線 2160）
〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1 立命館大学セントラルアーク 4F
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150 立命館大学 A 棟北ウィング（AN）3F Student Lounge 内
email:info@ritsumeikanunivpress.com

立命館大学新聞社 RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
立命館大学新聞社 検索
TEL 075-465-8253
MAIL info@ritsumeikanunivpress.com
Twitter @Rits_Press
Facebook www.facebook.com/ritspress/

5月号

本号の紙面

学友会常任四役そろう …2面
学内の感染防止対策 …2面
特集・海外大との連携 …3面
災害復興支援室10周年 …4面

海神

久しぶりに高校時代の友人と電話をした。お互いの大学生活、サークル、将来の進路、話は尽きることを知らない。ほぼ毎日顔を合わせていた頃を取り戻すように、物理的な距離を埋めるように、私たちの言葉が真夜中に浮かんでは消えていく。「新聞で書いているコラムって風神雷神みたいな名前だったっけ」と言われたときは大笑いしそうになった。「コロナが落ち着いたらまた会おうね」と名残惜しい気持ちを抑え込み電話を切った▼気軽に人と会うことがはばかられる今、間接的でも誰かと話せることのありがたみを痛感する。オンライン授業に戻ってしまい、めいっていた私の心が少し軽くなった▼手元にはほとんど何も書かれていないスケジュール帳。楽しみにしていた少しばかりの予定には二重線が引かれている。このカレンダーが真っ白でなくなるのはいつになるだろうか。「また会おうね」の「また」は、1週間後、もしくは1カ月後、あるいはもっと先なのだろうか▼際限のない問いをぐるぐると繰り返しながら、また沈みそうになる気持ちを追いやるように、パソコンの画面に言葉を黙々と打ち込んでいく。大切な人たちに会いたいから、会わない。どうやら私たちはこのやっかいな哲学とまだしばらく向き合わなければならないらしい▼開けた窓から吹き込む風が私の髪をふわりと揺らす。湿った雨音と澄んだ青空がやってくる頃にはきっと、と淡い期待を抱きながら過ごす夏の始まり。（坂口）

さわやかな笑顔が合否の決め手!!

面接の"好印象"ホームホワイトニングでポイントUP!
ホームホワイトニングの特徴
◉自宅で手軽に行える
◉歯列全体に行える
◉通院する回数が少ない
お気軽にご相談下さい。

歯の変色や歯茎の黒ずみが気になる方
審美歯科
希望に応じて様々な治療法をご提案!

前歯を治療するだけでもグッと印象がかわります!
面接では、自信に満ちた自然な笑顔は、面接官に好印象を与えることでしょう。魅惑的な笑顔の大きなポイントは白い歯と美しい歯並びにあります。高度な技術を取り入れたアリスデンタルクリニックの審美治療で、理想の歯と眩しい笑顔を手に入れましょう。

すきっ歯など歯並びを綺麗にしたい方
歯列矯正
カウンセリング無料! 即日見積OK!

欧米では歯並びが悪いことはマイナスイメージに!
海外のビジネス界では「歯並びが悪いと出世しない」と言われるほど、歯並びが重要視されています。国際化が進む中、日本でも歯列矯正の需要は急速に高まっています。面接時にチェックポイントにする企業も増えているとか…。当院では、カウンセリングからアフターケアまで担当医が責任を持って行います。

大阪大学歯学部医師チームによる最先端の治療 歯並び すきっ歯 クリーニング

ローソン 至金閣寺 市バス「北野白梅町」●串八 白梅町アリス歯科（くすの木 1F） 西大路通り 京都●信用金庫 至北野天満宮 今出川通り 北野白梅町駅 イズミヤ● 至円町・西院 北野白梅町より徒歩1分
京都市北区北野上白梅町8 くすの木1F
白梅町アリス歯科医院 アリスデンタルクリニック グループ 京都(四条大宮・白梅町)・東京・名古屋
まずはお気軽にお電話ください!!
075-462-8211
無料カウンセリング受付中!!
http://www.alicedental.jp Click

学友会常任四役出そろう
学生自治組織の新たな顔に

題府涼馬
中央事務局長

木村悠生
学園振興委員長

佐藤颯平
中央常任委員長

神足颯人
中央常任副委員長

岡野仁哉
中央常任副委員長

中央常任委員会の役員を決める「立命館大学学友会中央常任委員会役員選挙」が3月26日に行われた。学友会が2021年度体制に移行した2月1日以降も不在となっていた中央常任委員長・学園振興委員長に加え、すでに選出されていた中央常任副委員長が追加選出された。これにより、すべての学友会の総合政策を担い、かつ学友会の最高議決機関である中央委員会を統括する中央常任委員会の役員が出そろった。

投票の結果、中央常任委員長には佐藤颯平さん（法4）、学園振興委員長には木村悠生さん（情理4）、中央常任副委員長には神足颯人（うたり）さん（文3）が選出された。また中央事務局長には題府涼馬さん（法4）、中央常任副委員長には岡野仁哉さん（法3）が就任している。

佐藤さんは「スタートは遅れたが、やるからには先陣を切って代表者として盛り上げていきたい。皆さんの顔として頑張りたい」と意気込み、学生に対して「皆さんの意見を頂戴して、やっと学友会が動いていく。どうか学生自治組織である学友会に、協力的に主体的に参加してほしい」と呼びかけた。

木村さんは「常任委員長や常任委員会、中央委員会の参謀的な役割として、いろいろなことをサポートしていけたらいいなと考えている」とコメント。一方、題府さんは「今年は全学協議会があるため、並行してさまざまな平常業務を行う必要がある。両立して業務を遂行していけたらと思う」と述べた。（石渡）

中央常任委員会 役員の概要について

中央常任委員長
中央委員会を運営・統括する。また学友会の代表者として、大学との各種協議を行う。

学園振興委員長
中央委員会や常任委員会の政策活動を担う学園振興委員会の代表として活動する。

中央事務局長
学友会活動における事務・実務を担う中央事務局を取りまとめる。学友会の会計責任者。

中央常任副委員長
常任委員長を補佐し、さまざまな活動を行う。

社説
学生全員が享受できる支援を

２０２１年度春学期授業が開始し約２カ月。本学は昨年12月22日に声明「２０２１年度、つながりを実感できるキャンパスライフに向けて」を発表し、キャンパスでのリアルな交流を第一に、サイバーでキャンパスライフを飛躍的に向上させ「誰もが、いつでも、どこでも、学び・学び合える環境」を提供するとした。

昨年度は未曾有の事態に大学、学生ともに戸惑いながらオンラインを中心とした1年を送った。学生にとって貴重な大学生活の1年はもう戻らない。だからこそ、1年間で浮き彫りになった課題は決して無駄にされてはならない。確かに昨年度と比べ、フィードバックが行われる授業の増加や大学の環境整備など、学生への支援は充実した。しかしその支援は学生に100％行き届いているのだろうか。

manaba+Rには次々と新たなお知らせや通知が届き、重要なお知らせや支援に関する情報が確認されないまま流れていく。加えて、本学の動画配信の標準ツールであるPanoptoを使用している教授は一部だ。教授の柔軟な対応を可能にすることを優先しているとしても、せっかくの設備や支援が学生に100％届いていないのは問題だといえる。

また学生を誰一人取り残さないように支援を行き渡らせる上で重要なのは、学生の意見を拾い、支援に反映させることである。学生の意見を取り入れる手段として学内アンケートが挙げられるが、２０２０年度秋学期のアンケートにおける学生の回答数は全体の1割ほどにとどまっている。manaba+Rだけではなく学内メールでの周知をするなど、より回答率が上がる工夫をすべきではないか。

「誰もが、いつでも、どこでも、学び・学び合える環境」を目指すのであれば、学費で行われる支援を学生全員が享受できるよう、情報伝達はもちろん、支援内容の検討にも力を入れてほしい。

学園振興委員長 6年ぶりの選出 今後の活動は

本学の学生自治組織である立命館大学学友会の学園振興委員長が6年ぶりに選出され、学園振興委員会が発足した。学園振興委員長は中央常任委員会の役員である。また、中央常任委員長を補佐し、中央委員会および常任委員会の政策活動を担当する。今年度委員長に選出されたのは木村悠生さん（情理4）。

木村さんは、学友会の目標である学生自治の振興と学生文化の創出に向けてまい進していくとした上で、学園振興委員会の今後の取り組みとして「全学的な要求実現運動の活発化」と「過去資料の発掘と分析、それによる新たな文化と活動の創出」の2つを挙げる。

前者について、木村さんは現在全学自治会や中央常任委員会が別々に担っている問題を1つにまとめ、学園振興委員会として取り扱っていけるものは取り扱っていきたいとした。また学友会の各機関が旧来あった役割分担をきちんと行って、要求実現運動を体系化していくことで、生まれるものがあるのではないかと述べた。

後者の活動の意図については「何かを新しく変えていこうと思うときに自分の力や現在の力だけで1から変えていくのは非常に難しい。そのため過去の資料をひもとくことで、今後（学友会の）変化を志す人が『学生自治とは何か』ということを学び、意識する一助になるのではないか」と語った。（川村）

学生の声を大学に届ける 全学協議会とは

学生の声を大学に届ける要求実現運動の最たる機会である、公開全学協議会の開催が今年度予定されている。全学協議会とは「全構成員自治」の理念に基づき、大学を構成する大学常任理事会・学友会・院生協議会連合会・教職員組合・生活協同組合（オブザーバー）の5パートが本学の学園づくりのため協議する場のこと。教育・研究・学費・学生生活など、大学運営や学園創造に関する重要事項について話し合われる。また、ここでの協議を基にさまざまな施策や諸問題の解決に向けた取り組みが行われる。

1948年に学友会からの提起を受けて創設された全学協議会は、1979年までは不定期に行われていた。しかし1979年度以降は、大学からの学費提起に合わせる形で開催されている。前回は2019年度に行われ、2020年度・2021年度入学者に関する学費政策の提起が行われた。今年度も、教学や学生生活に関する2019年度全学協議会からの継続議題に加えて、2022年度以降の入学者の学費についても話し合われることが予想される。

中央常任委員長の佐藤颯平さん（法4）は「今年の全学協議会で大きなテーマになるのは、教学・学費面だと思う。やはり教学の質の担保が一番。学生にとって、学びと成長ができるキャンパスを作りたい」と語った。（波多野）

全学協議会を受けて実現したキャンパスづくりの事例

- 1991　クラス形成の場 サブゼミ 導入
- 2003　BKC セントラルアーク 建設
- 2019　諒友館地下食堂「ROSSO」開業

立命館大学
キャンパス内の新たな感染防止対策の実態に迫る

本学は春学期の感染症対策として抗ウイルス・抗菌コーティング、接触状況把握システムの導入、ドアノブの改修を実施した。

今回、抗ウイルス・抗菌コーティングが施工されたのは利用頻度の高い主要な施設や設備。その効果についてニチリンケミカル株式会社の中里陽子さんは、JISや国際標準ISOで定められる試験方法で、大幅に菌・ウイルスを低減させる結果が得られていると話す。本試験では布が用いられたが、ガラスなどの別の物質でも同じような実験結果が得られているという。

改修された、肘でドアを開けるドアノブ

本学財務部契約課の久米達也さんは導入について「安心して学び、学び合える環境のために抗ウイルス・抗菌コーティングの施工を実施したが、マスク着用など一人ひとりの感染防止対策も徹底してもらい、キャンパスに来る全員で安心・安全なキャンパスを実現したい」とした。

また接触状況把握システムでは、机に貼付されたQRコードを読み取りシステムに登録すると、陽性者と接触した可能性がある場合、学内メールに通知を受けることができる。本システムには「学園関係者に新型コロナウイルス感染者が発生した場合の対応ガイドライン（第2版）」などに基づく聞き取りの際に陽性となった人や、その可能性の高い人の行動状況の裏付けとなる側面もある。なお、陽性者個人が特定される状況とならないよう十分留意するとしている。

システムの利用について本学総務部総務課の木村友紀さんは「座席や教室の移動があれば、随時登録してもらいたい」と学生に呼びかけた。（川村・松尾）

立命館大生協 コロナ禍の営業形態に変化 2021年度春から

立命館生活協同組合（生協）は、BCPレベルが3に変更された4月19日からも営業形態を一部変更しながら営業を行うことを決定した。一方で2020年度の年間収支は4億円の赤字であり、2021年度からの出資要請金額の増額が決定されるなど生協の経営は困難を極めている。

春学期開始後2週間は食堂に列ができる光景も見られ、特に4月第3週の食堂と売店の1日の利用者数は2019年度の56・6％に。しかし4月19日からBCPレベルが3に変更され、利用者数は2019年度に比べ5分の1程度に落ち込んだ。これは2020年度秋学期の利用者数を下回るという。

特別営業中の本学存心館食堂

そんななか、5月3～5日には食堂の特別営業を実施。生協の酒井克彦専務理事は「大学からの要請も受け、特に帰省できない下宿生のことを考えて図書館やキャンパスのラウンジが開くことを前提に臨時営業を行った」と営業の経緯を語った。期間中は本学父母教育後援会からの支援により、4割引きでメニューが提供された。

今後、BCPレベルが2に変更されれば利用状況を鑑みながら4月第3週と同様の営業形態に戻す見通しだという。（川村）

4×400mリレー優勝

実力見せつけ有終の美飾る

関西学生陸上競技チャンピオンシップで、本学陸上競技部が男女ともに4×400mリレー決勝で1位となった。無観客開催となった今大会最後のトラック種目で、有終の美を飾った。

女子は第1走者の松尾季奈（スポ健3）が号砲に素早い反応を見せてトップに立つ。その後は一度も先頭を他大学に譲ることなく次第に2位との差を広げ、第4走者の山本亜美（スポ健1）にバトンを渡した。リレーの数時間前に400mハードル決勝に出場した山本は、その疲れを感じさせない力強い走りを見せる。圧倒的なチームワークを見せ、2位と5秒以上の差を付けるタイム3分38秒43で優勝した。

2位と大きな差を付けてゴールする山本

パート長を務める第2走者の南千尋（スポ健4）は、普段の練習について「年齢に関係なく課題や本音を言い合えている」と語る。また、同種目での日本一を目標として掲げた。

一方、女子に続いて行われた男子のレースは、序盤から順位が大きく変動する展開となった。走者ごとに順位が入れ変わる接戦のなかで、本学は序盤から3位以内を維持する。第4走者の篠原宏輔（理工4）はバトンを受け取ると、そのまま一気に加速。最後の直線で他大学の猛追を振り切り、0・86秒差で見事1位を勝ち取った。

バトンを受け取り走り出す第４走者の篠原

1回生からこの種目に出場しているという篠原は「個人では苦い思いをしていたが、前の3人がいいレース展開をしてくれたので気持ち良く走れた。はじめてこの種目で表彰台の一番上に立つことが出来たのでうれしい。次につながるレースになった」と振り返った。9月に行われる全日本インカレでは、昨年の順位を上回る表彰台を狙う。（石渡）

主力のカギはハングリー精神

京都サンガ川﨑選手インタビュー

京都府内の13市1町をホームタウンとするJ2京都サンガFCには、本学産業社会学部2回生の川﨑颯太選手が在籍している。2020シーズンに京都サンガU－18から昇格し、プロ1年目から16試合に出場。2年目の今季は開幕からの全15試合に出場し、直近10戦負けなしのチームの強さをMFのポジションで支えている。（5月26日現在）

今シーズンについては「試合に出るチャンスを頂いているなか、守備でボールを奪うという自分の強みをプロの世界でも出せています」と語り、自身の目標として5ゴール、チームの目標として優勝及びJ1昇格を掲げる。

川﨑選手のポジションは、アンカーという攻守のバランスを整えるMF。中盤の底に位置し、試合ではチームの流れやリズムを作る。「いいプレーをすればチームもいい方向に動き、ミスをすれば失点につながる重要なポジションです。だからこそ、チームを勝利に導けたときは本当にうれしいです」。

川﨑 颯太（かわさき・そうた）
山梨県甲府市出身。立命館宇治高等学校卒業。身長 172cm・体重 68kg。利き足・右。大切にしている言葉は「勝利の女神は細部に宿る」

京都サンガFCには30名以上の選手が在籍している。練習でのチームメイトとの戦いに勝てないと、試合に出ることはできないと川﨑選手は言う。「僕自身負けず嫌いな性格で、日々の練習も戦いのつもりでやっています。誰にも負けたくないというハングリー精神や、やり返してやるという気持ちが練習の原動力です」。

今や主力として活躍を見せる川﨑選手だが、プロ1年目の昨季はチームの信頼を得ることに苦労した。強みであるボールを奪う守備でアピールし、チームに認めてもらっていったという。

本学の学生に向けては「自分のできることを精一杯アピールすること。そうすれば周りも自分の良さを分かってくれる」と話した。

特集　海外大学との連携

本学はこのたび、文部科学省が実施する「スーパーグローバル大学創成支援事業」の令和2年度中間評価でA評価を受け「これまでの取組を継続することによって事業目的を達成することが可能」と判断された。

当事業では日本国内の高等教育の国際通用性・国際競争力の向上を目的に、海外の大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める日本の大学へ文科省が支援を行う。「グローバル化牽引型大学」にも採択される、本学の「海外大学との連携」を特集する。（坂口）

日中連携で学びを社会へ
大連理工大学・立命館大学 国際情報ソフトウェア学部

大連理工大学（中国・大連）と本学が共同で運営を行う「大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部」。「国際的に活躍できるグローバルIT人材の育成」を目標に2014年、大連理工大学開発区キャンパスに開設された。双方の大学の教員による授業・演習の共同開講や両大学学生の受け入れ・派遣、産学官連携で共同教育・研究を推進する。授業がすべて日本語で行われることも特徴的だ。

情報理工学部事務室の呉岩（ごがん）さんは「グローバル化が進む現在、自動車や家電の制御用ソフトウェア開発などのIT分野において、アジアは世界でも重要な位置を占めるようになっている。そのなかで、開発を国内で完結させるのではなく外国と連携を取りながら進める動きが加速している。日中というアジアの国同士の連携によるこの共同学部は重要な役割を果たす」と共同学部がもつ意義を語った。

2019 年に行われた短期研修の様子

新型コロナウイルスの影響により、現在はオンラインで授業が進む。呉さんは、今後の状況を踏まえて今のカリキュラムを改善をしていきたいとした。

これからの展望については「すべての分野に情報科学の技術は必要不可欠。学んだことを研究内で完結させるのではなく、それをいかに今の社会に還元・フィードバックできるかにかかっている。これができる学生をこれからも多く輩出したい」と話した。

3大学が生み出す「東アジア人文学リーダー」
キャンパスアジア・プログラム

本学文学部が東西大学校（韓国・釜山）、広東外語外貿大学（中国・広州）とともに運営を行う「キャンパスアジア・プログラム」。京都・釜山・広州の3都市において「日中韓伝統文化と現代文化に通じた、高いコミュニケーション能力を有する人材の育成」と「日中韓次世代リーダーのネットワークの構築」を目標に掲げる。

右の目標を達成すべく、本プログラムでは2、3回生時の2年間で2カ国（中国・韓国）を2周する「移動キャンパス」を実施する。文学部事務室の段野真那さんはプログラムについて「それぞれの大学の授業を現地の言葉で学ぶことでその国への理解が深まるのが特徴」と話す。「3カ国の学生が平等な立場で助けあいながら言語・文化・社会・歴史などを学び、将来さまざまな人々が共に暮らす社会環境を形成していく。彼らが『東アジアで活躍する優秀な国際人』になることを目指す」と本プログラムがもつ意義についても語った。

日中韓３カ国の学生の交流の様子

新型コロナウイルスの影響を多く受けたが、段野さんは「オンラインでも現地大学と協力し学びを止めない仕組みができた」と手応えを感じている。現地渡航が可能になっても「今後を鑑みてオフラインとオンラインを使い分けていきたい」と前向きな姿勢を示した。

日・米2大学の学生として過ごす4年間
ジョイント・ディグリー・プログラム

本学国際関係学部がアメリカン大学とスタートさせたのが「ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）」だ。日米の大学では初、学部レベルでは日本初となる共同カリキュラムを形成した。学生は両大学の学生として4年間（本学で2年・アメリカン大学で2年）を過ごし、卒業時には両大学から共同で1つの学位が授与される。アメリカン大学は国際政治の中心ワシントンDCにキャンパスを構える。130の国と地域から留学生が集う名門私立大学だ。

学生は、本プログラムで4年間「グローバル国際関係学」を学ぶ。国際関係学部事務室の浅岡健太郎さんによれば、国際関係のトピックについて日・米にキャンパスを持つ両大学の視点から学ぶことができるのがJDPの強みだという。

本プログラムを受講している学生は例年、2回生の秋セメスターから4回生の春セメスターまでの2年間をアメリカで過ごす。しかしここ1年間はコロナ禍でアメリカへの渡航ができないため、オンラインで履修を進めている。「13時間という大きな時差の影響があるため、Zoomを用いたライブ配信の授業は学生にとって負担になるところも多い」と浅岡さんは現在の学生の状況について語った。休学をするなど、ラーニングスケジュールをずらす学生もいるという。

本学で学修中の JDP 生の様子

今後の展望について浅岡さんは「プログラム本来のさまざまな国から集まる学生同士の『学びあい』を取り戻したい。互いのキャンパスで、授業や課外活動が早く再開されることを願う」とコメントした。

立命館災害復興支援室 設置10年迎える

立命館災害復興支援室は今年の4月に設置10年を迎えた。本支援室はこれを記念し、特設サイトを開設。日本各地の被災地の現状などについて発信している。これまでの活動について、同職員の北川真理子さんに話を聞いた。

本支援室は東日本大震災発生時に被災した学生への経済的支援である「復興＋R基金」から活動をスタートした。この取り組みは一般的な募金だけでなく、本学の教職員の月収から一定額を基金に充てるもので、全国的に見ても画期的な試みだったという。

これと並行して、学生によるボランティア活動も開始。その主な活動内容は仮設住宅に移住した被災者との交流会など、精神的ケアを目的としたものだった。これは生活環境の激変などのショックで孤立する高齢者を対象としており、過疎化が進む地域では若者との交流が果たせるとして自治体からも歓迎された。

こうした活動を継続するなかで本支援室は、人材育成プロジェクト「チャレンジ、ふくしま塾。」を福島県と共同で開始。この取り組みは毎年、複数人の学生が福島県に赴き被災地の現状を学ぶというもの。同時に、風評被害の払拭といった拡大する支援のニーズに応えるものでもあった。

被災者との交流は、学生の災害に対する考え方を深めることにもつながった。当初はメディアに映る被災地に距離を感じ、復興に貢献できるのかと不安に思う学生も多かった。しかし災害を知り、伝えようとする学生に対する被災者からの多大な感謝が、手助けしている実感を育んだという。また自然への無力感や自分たちの無知に対する気づきも、参加した学生らにとって大きな経験となった。これらの経験は学業や進路にも影響を及ぼしている。

北川さんは今後の活動について「復興の現状を知るため、実際に見聞きすることが大切。大事なのは活動の継続であるが、他大学とのネットワークを充実させたダイナミックな支援活動も志している」と語った。

（冨吉）

福島県南相馬市での被災者との対話

津波被害を受けた
福島県楢葉町での視察

Team-mate

学生のみで開発 立命館大生限定のSNSアプリ誕生

本学の団体・サークルやイベントの情報を確認できる、本学学生限定のSNSアプリ「Team-mate」が3月から公開されている。代表の岡田かのんさん（経営管理研究科M1）が昨年7月に行ったプレゼンをきっかけに仲間が集まり、10月に開発をスタート。理工学研究科や経営学部の学生など7人が関わり、約4カ月でリリースした。

岡田さんは「学内の情報と個性につながるプラットフォームとして、立命館の学生に使ってもらいたい」と話す。開発の背景として、現状の学内では、同じような興味を持った人と必ずしもつながれるわけではないと指摘する。「学内には多様な個性や専門性を持った学生が3万人以上いるのに、実際に出会えるのは同じキャンパスの一部の人だけ。コロナ禍において、より一層学生間のつながりが希薄化しており、機会損失が起きていると思う。そこで、個性が見えて、情報が見られて、挑戦の一歩につながるような役割を果たせたら良いなと思った」と明かした。

本学学生であることを確認するため、アプリの使用には学内メールの登録が必要。指示に従って氏名や学部、回生、自己紹介などを入力すれば使用可能になる。

メニューから「団体」を選択すると、カテゴリ別、キャンパス別に団体・サークルを探すことができる。「イベント」のメニューからは、近日中に開催される団体・サークルのイベントが確認できる。詳細ページで「参加」ボタンを押すとマイページに登録され、他の参加者の情報が表示される。

また「学生」のメニューから学部など条件を絞って学生を探すことも可能。岡田さんは「まだまだ未完成」と語る。今後もアプリの更新が続けられる予定だ。

アプリ「Team-mate」
iOS/Androidに対応

総合科学技術研究機構 茜灯里助教 日本ミステリー文学大賞 新人賞受賞

本学総合科学技術研究機構に所属する茜灯里（あかねあかり）助教が、第24回日本ミステリー文学大賞新人賞を受賞した。この賞は、新しい才能と野心にあふれた作家発掘のため、光文文化財団が毎年公募しているもの。人とウイルスとの戦いを描いた受賞作「馬疫（ばえき）」は今年2月に書籍化もされ、話題を呼んでいる。

舞台は、新型コロナウイルスの流行が収まった日本。いまだパンデミックの渦中にあるパリに代わり、2024年も五輪は東京で開催される予定となっていた。しかし五輪提供馬の審査会で、突然複数の馬が人を襲う狂騒型の新型馬インフルエンザを発症する。果たして五輪は無事開催されるのか。未知のウイルスに絡む黒幕の思惑とは。社会と科学をテーマに世相を反映したストーリーと、未知のウイルスに毅然と立ち向かう主人公の姿が、本作の魅力となっている。

受賞の喜びを聞かれ「書く世界に戻れることに対する安心感が大きい」と答える茜助教は、新聞記者、科学ライター、馬術選手、獣医師などさまざまな経歴を持つ。新聞記者時代に感じた、人の内面を描きたいという想いから、小説を書きはじめたという。

現在は本学において科学コミュニケーションと呼ばれる分野を担当し、大学や研究所といった科学の現場と、一般の人を結び付ける活動を行っている。「科学にあまり親しみのない人にとって、この作品が科学に触れ合うきっかけとなってもらえたらうれしい」と語る。

茜助教は学生に向けて「どんな夢でも、努力し続けていればいつか必ず花開く。今の自分にとらわれず、持っている夢を大切にしてほしい」とメッセージを送った。

（波多野）

贈呈式の茜灯里助教

文部科学大臣表彰

若手科学者賞を教員２名が受賞

「令和3年度科学技術分野における文部科学大臣表彰」が4月6日に発表され、本学生命科学部の折笠有基教授と理工学部の長谷川知子准教授が若手科学者賞を受賞した。文部科学大臣表彰は科学分野において顕著な成果をあげた科学者を表彰し、今後の科学技術を向上させることを目的としている。

折笠教授の研究は電池の内部を解析する観測技術を推進するものだ。電池の解析は耐用年数の伸長など品質向上には必要不可欠な存在である。従来、こうした解析は使い終わった電池を解体して観測する他なく、調査精度には限界があった。

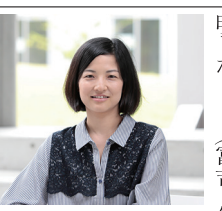
ただ折笠教授は、発動状態の電池内部を観測することに成功。この観測には電池内部を空間的・時間的階層に分ける必要があったという。その空間的・時間的スケールを拡大・縮小しながらリアルタイムで電池内部を観測することで、より精密な観測を可能にした。

折笠教授は、学生に向けて「自分なりの広い視野と軸を持ち、人と意見を交わしつつ、目標に向かって進んでほしい」とメッセージを残した。

また、長谷川准教授は今回の研究で、農業・土地利用を介した気候変動政策が農業経済などを通じて世界の食料安全保障に与える影響を、明瞭かつ定量的に解明した。

（冨吉・佐野）

折笠有基教授



長谷川知子准教授

たくさんの人に伝えたい感動や興奮。
共有したい情報や想い。
それらを表現できるのはたった一枚の紙の上。
限られた範囲で何ができるか。
記事の構成、写真のアングル、
紙面のデザイン、見出しの付け方。
伝えたいから、全てにこだわる。
こだわるから、良いものが生まれる。
私たちにしかできないことが、ここにある。

立命館大学新聞社
RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
075-465-8253
info@ritsumeikanunivpress.com
@Rits_Press
www.facebook.com/ritspress/

京都・衣笠：学生会館 3F BOX316
滋賀・BKC：セントラルアーク 4F アクト・オフィス内
大阪・OIC ：A 棟北ウィング 3F Student Lounge 内